

入谷朝顔まつり：会場（真源寺/入谷鬼子母神）

仏教日蓮宗聖人の宗派である法華宗の寺院、真源寺は、地元では入谷鬼子母神としてよく知られています。仏僧の日融が、江戸（今日の東京）郊外の農地で安価な土地を購入し、小さな木像を安置するための寺を建立したのが 1659 年。真源寺はそれ以来、現在の場所に佇んでいます。日融は、法華宗の教えを首都の大衆に伝える役目を帯びた伝道師として、今では静岡県として知られる地域の法華宗大本山である光長寺から、江戸に赴きました。日融は、鬼子母神（サンスクリット語の「ハーリティー」）を模した像を託されていました。仏教の言い伝えによると、女神である鬼子母神には、数百人の子がいましたが、いつも他人の子供を誘拐し、自分の子供に食べさせていたと言われていました。鬼子母神の悪行を止めさせるため、仏陀は女神の末っ子を隠し、同じ苦しみを味わわせました。苦痛に耐えかねた鬼子母神は、反省することを約束し、あらゆる子供と出産の守り神に生まれ変わりました。日融の像は、かつては恐れられていた神が象られており、真源寺に遺されています。片手で持ち運べるほど小さかったおかげで、幾多の地震と戦争にも耐えてきました。像は、毎月 8 日、18 日、28 日にご開帳されています。